

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
青森県東青地域	青森市、平内町、外ヶ浜町、今別町、蓬田村	平成26年度～平成30年度	平成26年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標		現状 (割合※1) (平成24年度)	目標 (割合※1) (令和元年度) A	実績 (割合※1) (令和元年度) B	実績 /目標※2
排出量	事業系 総排出量	45,893 t	28,281 t (-38.4 %)	38,773 t (-15.5 %)	40.4 %
	1 事業所当たりの排出量	3.21 t	2.01 t (-37.4 %)	3.01 t (-6.1 %)	16.3 %
	生活系 総排出量	84,393 t	71,469 t (-15.3 %)	70,646 t (-16.3 %)	106.4 %
	1 人当たりの排出量	236 kg/人	202 kg/人 (-14.4 %)	235 kg/人 (-0.5 %)	3.5 %
	合計 事業系生活系総排出量合計	130,286 t	99,750 t (-23.4 %)	109,419 t (-16.0 %)	68.3 %
	ホタテ養殖残渣	1,072 t	2,916 t	1,436 t	
	し尿汚泥	3,689 t	3,822 t	2,693 t	
	下水道汚泥	12,836 t	12,836 t	12,023 t	
	うち、併せ産廃処理量	— t	10,760 t	7,989 t	
	総排出量(ごみ+養殖残渣+し尿+併せ産廃) (排出量(産業廃棄物：下水道汚泥))	135,047 t 12,836 t	117,248 t (-13.2 %) 2,076 t	121,537 t (-10.0 %) 4,034 t	75.9 %
再生利用量	直接資源化量	68 t	68 t	43 t	
	総資源化量 (下水道汚泥による資源化量含まず)	16,716 t (12.2 %)	27,509 t (25.4 %)	17,294 t (15.1 %)	22.2 %
	下水道汚泥による資源化量	t	t	t	
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	t (%)	t (%)	t (%)	%

平内町・蓬田村のホタテ養殖残渣量を含まない。

※ 目標未達成の指標のみを記載。

※1 排出量は現状に対する増減割合、埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合) を記載。

2 目標が達成できなかった要因

(1) 排出量

当該地域計画中に排出量抑制のための各施策を設け、目標達成に向け取り組んできたものの、想定した目標に届かなかったことは、各施策でのさらなる取組や対応が不十分であったことが要因として考えられる。

事業系排出量は減少傾向にあるものの、主に事業系可燃ごみが目標に届かなかった状況にあり、食物残渣や古紙類等の排出が影響していると考えられる。

(2) 再生利用量

集団回収量が想定ほど伸びなかったことなど、当該地域計画中の各施策でのさらなる取組や対応が不十分であったことが要因として考えられる。

また、平成30年4月に青森市清掃工場（破碎選別処理施設）において火災が発生し、再稼働までに約1年8カ月の期間（令和元年12月から再稼働）を要したことにより、有価物回収量が減少したことも要因となっている。

3 目標達成に向けた方策

(1) 排出量

事業所訪問による事業系ごみの減量化及び資源化の働きかけや事業系一般廃棄物の拡散検査の強化を行っていく。

また、青森市清掃工場におけるリサイクルできる古紙類の搬入制限の実施を継続していく。

(2) 再生利用量

有価資源回収団体活動奨励事業（集団回収奨励金）の継続などにより有価物資源の回収を進めることで再資源化を図る。

また、青森市清掃工場の安定稼働により、再資源化の更なる推進を図る。

(都道府県知事の所見)

目標値に達しなかったのは排出量と再生利用量の2項目であった。

排出量については、減量化が進んでいることが確認できており、目標に届かなかった要因となった項目も明らかになっている。また、改善計画では、具体的な方策が示されており、更なる減量化が期待される。

一方、再生利用量については、青森市清掃工場（破碎選別処理施設）の休止時期もあることから判断が難しいが、再生利用量自体は増加しており、目標達成に向けた取組成果が表れているものと判断できる。また、改善計画では当該項目への達成に向けた方策が示されており、清掃工場が安定的に稼働できれば再生利用量の増加が期待できる。